

# 久里浜の学び舎



H30(2018).8.29

学校だより NO.6

横須賀市立久里浜小学校

校長 木屋哲人

夏休みが終わりました。朝会の際、子どもたちの元気な姿に、ホッとしました。

また、登校時は、夏休みの宿題を、大切に抱えて登校する姿が見られました。中には、久しぶりの登校と、重いランドセルのために、夫婦橋付近で疲れ切ってしまう児童もいました。

早く学校生活を取り戻してほしいと願います。

## 段ボールの造形

7月17日(火)、体育館で3年生が段ボールを使った造形作品の制作に挑戦して



いました。持ち寄った段ボールを思い思いに切り、貼り、つなげ、迷路、ロボット、家、車など、学級ごとの作品が仕上がりました。

当日は、とても暑い日で、体育館の中も熱気でムンムンでした。そんな中、多くの保護者が来校してくださいました。有難うございます。

## 5年生がキャンプに行きました

7月18日、19日、5年生のキャンプが、「助け合い きずなふかめる ふれあい村」のスローガンのもと、足柄ふれあいの村で実施されました。18日は、西丹沢の中川での川遊び、ふれあいの村でのカレーづくり、キャンプ



朝の集会では、ジンギスカンを踊りました。

ファイアー、ナイトウォーク、19日は丸太の森でのスタンプラリーでした。

5年生の児童たちは、他を気遣うことができ、また、指示をきちんと聞くことができる集団であるという印象を得ました。それでも、グループで口論になったり、すねてしまう人が出てしまったりもしました。閉鎖された中での集団生活であるからこそ、学校での生活以上に様々な出来事が起こり、そんな経験もキャンプの大きな意義であると思います。

カレーづくりの際、「片付けはとっても面倒くさいけれども、君たちの家の人は、毎日、君たちにそれをしてくれているのだということを理解するように」と、先生からの指導がありました。丸太の森でのスタンプラリーでは、子どもたちは水道水の有難みを感じていました。日常生活が、様々な人のご苦労や、便利に支えられていることも実感したのではないのでしょうか。

大きな収穫のあった二日間だったと思います。

## 自然体験活動の必要性

少々古い資料ですが、興味深い調査結果があります<sup>i</sup>。

子どもの頃の自然体験とおとなになってからの人間関係能力の相関関係についての調査結果です。

子どもの頃に、

「湧き水や川の水を飲んだこと」

「夜空いっぱい輝く星をゆっくり見たこと」

「海や川で泳いだこと」

「太陽が昇るところや沈むところを見たこと」

という設問に「ある」などの肯定的な回答をした人は、おとなになったとき、

「けんかをした友だちを仲直りさせることができる」

「友だちに相談されることがよくある」

「初めて会った人とでもすぐに話ができる」

「近所の人に挨拶ができる」

かどうかを問う質問に、「そう思う」などの肯定的な回答をしている人が多かったそうです。つまり、子どもの頃の豊かな自然体験は、おとなになった時の人間関係能力にプラスの影響があるということです。

全ての人それぞれに当てはまるのかわかりませんが、どうして自然体験の豊かさと人間関係調整能力が相関するのかわかりませんが、興味深い結果であると思います。

さて、今回の本校のキャンプを振り返ると、自然体験は、川遊びとナイトウォーク、スタンプラリーでした。

海に近い久里浜小でも、子どもたちは夏と言えば、海ではなく、「プール」であるようです（最近では、海水浴をする人が減っているとか）。川で泳ぐことに至っては、今回のキャンプが、「人生

の、最初で最後の川遊び」という児童もいるかもしれません。

ナイトウォークは夜の山道をグループで進みます。ちょっとしたハイキングコース（真っ暗です）を、懐中電灯を頼りに歩きました。虫の音や動物の鳴き声の中、人間が古来もっていた夜の闇の不気味さや恐怖を体感する、いい機会になったと思います。

トイレは宿泊する建物の外にあります。夜、部屋から屋外に出て、蜘蛛の巣や蛾、時にナナカマドなど<sup>ii</sup>がいるトイレに入ることもまた、自然体験と言えましょう。そんな生活に慣れてしまったのも、意外に多かったようです。

おそらく野山を駆けずりまわって遊ぶことが少なくなってきた現在の久里浜小の児童ですが、貴重な自然経験になったと思います。

夏休みばかりが自然体験の季節ではありません。折に触れ、自然の素晴らしさ、大切さ、貴重さや脆さ、また、危機回避も含めて、自然と関わり、生涯にわたって自然とうまく付き合う人、そして、他の人ともうまく付き合うことができるおとなに成長して欲しいと思います。

<sup>i</sup> 「子どもの体験活動の実態に関する調査研究報告書」H22.10 国立青少年教育振興機構

<sup>ii</sup> ふれあいの村のスタッフは、敷地内の動物、植物や虫たちを、『村の住人』と呼んでいました。